

開講「イチから学ぶ！いちごセミナー」

～女性農業者がいきいき働くためのステップアップに～

1 課題の背景とねらい

女性農業者は、家庭での役割が大きく、農業に関する知識や技術が学びにくい、また点在しているため同世代でのつながりも作りにくい傾向があります。そのため、女性農業者が経営に主体的に参画し、担い手として活躍するためには、参加しやすい学習内容や仲間づくりの場が不可欠です。近年、千葉地域で増加しているいちご経営体の中にも、栽培管理を初歩から学べ、他の農業者とながれる機会を望んでいる女性農業者がいることがわかりました。

そこで、いちご栽培に携わる女性農業者が基本的な栽培技術を学び、経営に主体的に取り組むことを目的とした実践力向上研修「イチから学ぶ！いちごセミナー」を開催しました。受講者が交流を深めるためのグループワークを取り入れ、つながりづくりも目的としました。

2 普及活動の経過・結果

(1) 受講者の掘り起こしと参加しやすい研修づくり

事前にいちご栽培管理の基本的な知識を学ぶ場を望んでいる女性農業者の掘り起こしを行いました。いちごの栽培に携わり始めた女性農業者にいちごセミナーへの参加を働きかけ8名が受講に意欲を示しました。また、受講者の一部から研修内容や時間帯等について要望を聞き取り、いちご栽培の繁忙期や子育て等で忙しい時間を避けた開催としました。さらに、初めての研修に対して参加しやすい印象を持ってもらうため、開催要領とは別にカラフルで親しみやすいチラシを作成するなど工夫をしました(図1)。第1回、第2回の研修ともそれぞれ6名が参加しました。



図1 事前配付したチラシ

(2) 講義による栽培知識の習得

講義内容には、事前に行った聞き取り調査の結果を反映し、また、学んだ内容をすぐに自身の作業に反映できるように、栽培スケジュールに合わせたテーマを盛り込みました。7月に開催した第1回は、「いちご栽培の基本」、「育苗から定植までの作業と管理」、「定植までに気をつける病害虫と防除」と育苗に焦点を当てました。病害や障害が発生した実物の苗を使ったクイズ形式の展示をし、受講者に実際に触れて考えてもらいました。11月に開催した第2回は、「いちご栽培の本ぽにおける作業と管理、病害虫防除」、「農薬の選択に

必要な基礎知識」、「農薬散布の基礎知識」に焦点を当て、実践的なクイズを出題して理解を深めてもらいました（写真1）。研修後のアンケートや個別訪問による聞き取りからは、「これまで言葉としてしか聞いたことのなかった花芽分化について、意味やその重要性を理解した上で管理に取り組めるようになった」、「いちごの変化を見逃さないように管理に取り組むようになった」など、栽培管理技術への理解が深まった様子がみられました。

～準備から廃棄まで～」と農薬利用



写真1 講義を熱心に聴く参加者
（第1回）

（3）グループワークによる受講者同士のつながりづくり

第1回研修では、初対面の受講者が親睦を深めるため、就農の経緯や経営内容を共有し、顧客対応などの話題で盛り上がりました。第2回では、悩みや課題を共有し、意見やアイデアを交換しました（写真2）。受講者によって経営参画の程度は違いますが、薬剤散布時や育苗時の暑さ対策など共通の課題が見つかり、さまざまな意見を聞くことで、自身の経営における改善点を見つけられた受講者もいました。受講者からは、「女性だけの少人数の研修で、気軽に発言できた」、「薬剤散布時の装備について夫と話し合いたい」といった声が聞かれ、自身の経営の見直しと、女性農業者同士のつながりを作るきっかけとなりました。



写真2 グループワークでの活発な
意見交換の様子（第2回）

3 今後の課題

今年度の研修ではいちご栽培について広く浅く知識の習得を目指しましたが、来年度の研修では、受講者の興味ある内容をより掘り下げて学ぶことを目指します。また、自身の課題を解決するためのプラン作りなど、経営参画を促すワークショップなどを企画し、女性農業者がいきいき働くためのステップアップに繋げていく予定です。

4 担当者 市原グループ 川邊まど香
八千代グループ ◎武田藍、小塚玲子

5 協力機関
千葉市、習志野市、市原市、八千代市